



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

少人数制症例検討会の提案・運用を通して



○ 前川聡兵⁽¹⁾ 土井大介⁽¹⁾ 稲次正敬⁽¹⁾ 稲次美樹子⁽¹⁾ 高田信二郎⁽²⁾

(1) 医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院

(2) 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院

はじめに

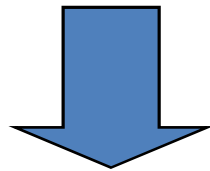
当院では、入院患者を対象にPT・OT・ST全セラピスト(約20名ほど)が参加し、症例検討会を行っている。しかし、多人数が参加する検討会では発言量が低下、検討会の内容がリハビリに反映されていないなどの問題点が挙げられた。そこで、少人数制症例検討会を提案・運用し、その結果について以下に報告する。



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

症例検討会の本来の目的

症例検討会の本来の目的は、PT・OT・ST間で情報共有を行い、評価・アプローチ、今後の方向性などについて討議する場である。



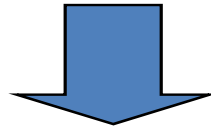
現状、症例検討会は報告会という意味合いが強くなってきており、ディスカッションが行えていないのでは？



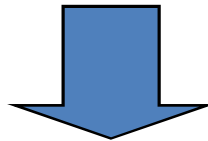
INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

現状の症例検討会の問題点

①多くの職員は傍観者という形になっており、全体的に発言量が低下している。(討議不十分)



②評価やアプローチなど具体的な内容の討議が行えていない。



③症例検討会の内容がリハビリに反映されていないのではないか？



そこで入院担当のリハ職員を対象として、 意識調査アンケートを実施

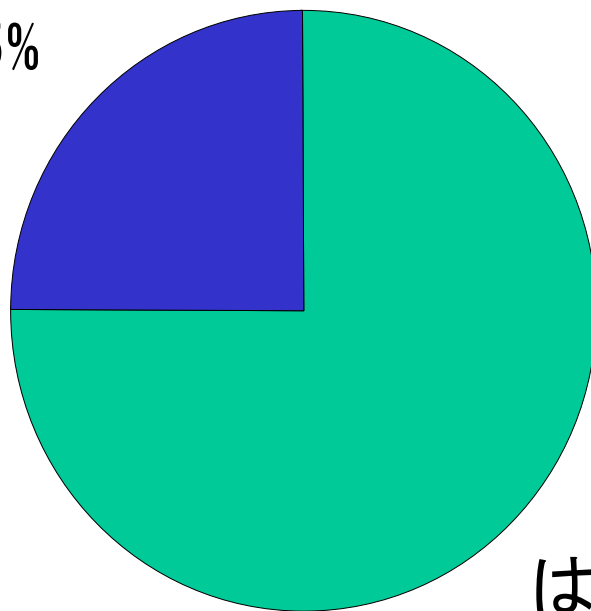
(アンケート対象：PT7名、OT4名、ST5名 計16名)



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

①症例検討会において質問などがあっても発言のしにくさを感じますか？

いいえ
25%

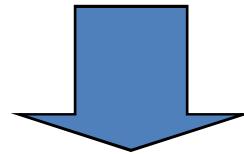


はい
75%



なぜ発言のしにくさを感じますか？

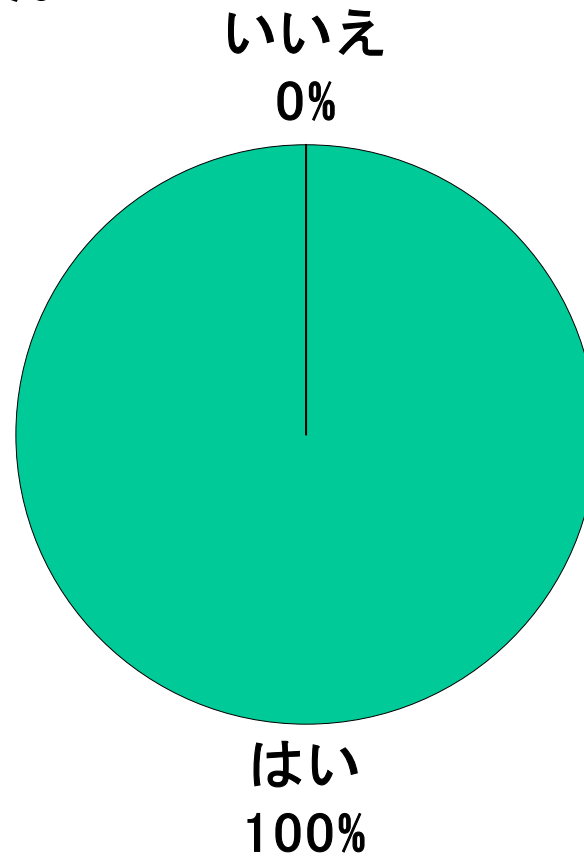
- ・大勢の前で発言するのは慣れていない・緊張する。
- ・自分の知識不足を感じるため、質問するのが恥ずかしい。
- ・他職種 of 専門用語を聞きたいが、気が引ける。



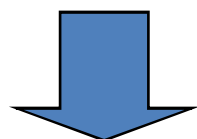
質問はあるが発言のしにくさを感じており、発言量低下の原因が明らかとなった。



②リハビリを行うにあたり、評価・アプローチ
に行き詰まりや今後の改善について不安
を感じますか？



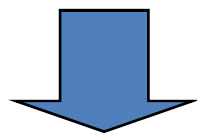
多くの職員は不安を抱えながらリハビリを行っている。



しかし

どのように解決していますか？

- ・課長・主任に相談する。
- ・担当間で話し合う。
- ・勉強会や文献の内容を活用する



残念ながら症例検討会という意見は得られなかった。



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

アンケート結果のまとめ

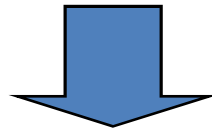
- ①従来の症例検討会では発言・質問しにくく、発言量の低下を招いている。
(議論できていない)
- ②多くの職員は評価・アプローチ・今後の改善について行き詰まりや不安を感じているが、現状行っている症例検討会ではリハ内容の変化に繋がっていない。



少人数制症例検討会の提案

会議運営の適正人数という観点参考に
少人数制にして発言しやすい環境に設定。

- ①緊張や気兼ねすることなく発言することができる。
- ②参加意識が芽生える。
- ③ディスカッションの活性化が図れる。



評価・アプローチなどについて具体的な内容の討議行え、
訓練内容の質向上に繋がるのではないか？



適正人数の設定

約1000人を対象に会議についての適正人数を調査した所、若い世代を中心に4～6名が48,9%と最も多かったとの回答が得られたようである。

PRESIDENT 2009/8/17号掲載



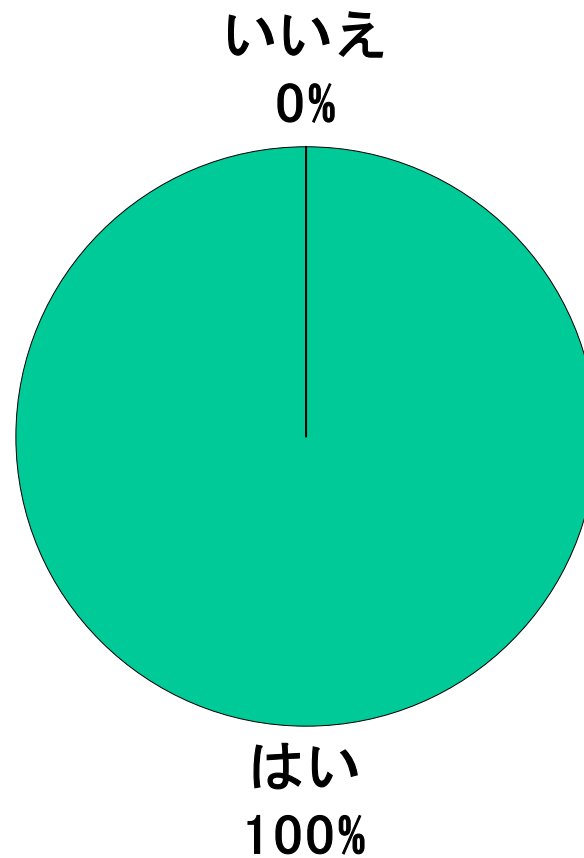
INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

方法

- 1チームを5～6名の少人数制とし、リーダーを選出。
- 議論を活性化させる目的でPT・OT・ST個別のチーム編成とする。
- 頻度は週1回程度、朝の申し送り30分を活用。
- 運用前後でアンケートを実施し、意識・訓練内容の変化について調査する。

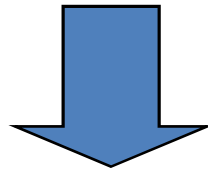


① 少人数制になったことで、自分の意見や考えを述べやすくなったと思いますか？



自分の意見や考えを述べやすくなりましたか？

- ・少人数制では緊張することなく、質問ができる。
- ・普段質問しない職員からの質問や発言も増え、ディスカッションが活性化した。

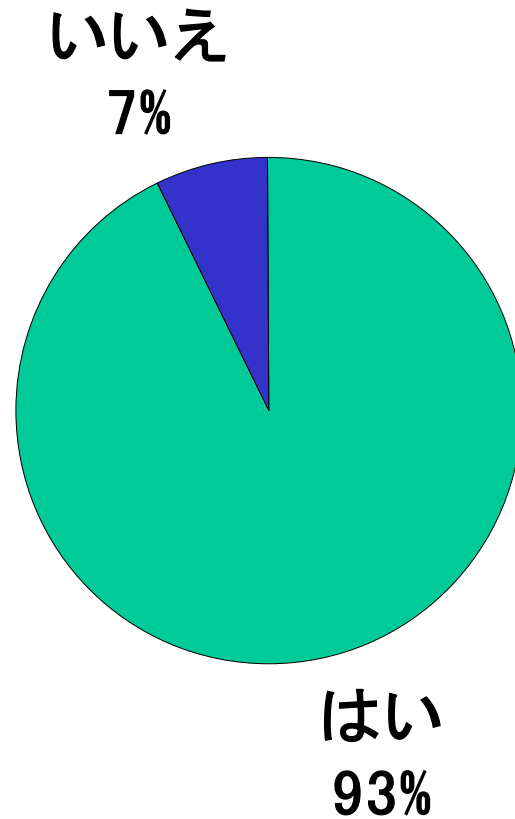


コミュニケーション量の増加を図ることができた



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

②リハビリにおいて視点や考え方・アプローチの変化は生まれましたか？



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

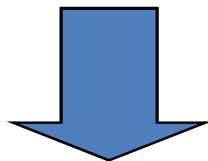
リハ内容に変化はみられましたか？

- ・PT・OT・STを分けて症例検討を行うことで、より専門的な内容のディスカッションを行うことができ、評価・アプローチにつながった。
- ・問題点の把握などに偏りがあったが、他の患者での体験や考え方を聞き、悩んでいる患者の参考になった。



変わらなかった点

- 少人数制では発言量が増えたが、多人数の症例検討会になるとやはり発言量が低下してしまう結果になった。



- 言い換えれば、ディスカッションを活性化させるためには、適切な人数設定が必要ではないか？



考察

- 今回、少人数制にすることで話しやすい雰囲気となり、ディスカッションの活性化を図ることができた。
- それにより、具体的な評価・アプローチ方法の検討を行うことができ、各セラピストの視点・アプローチに変化をもたらす結果となった。



現在の運用状態

- ・PT・OT・ST合同の少人数チームも構成。多角的な話し合いができるように進めている。
- ・症例検討会の方式を変えていくことで、全セラピスト参加型の症例検討会の充実も図っている。



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

ご清聴ありがとうございました。



INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

医療法人 凌雲会 **稲次整形外科病院**